



CONTENTS

- 1-トピックス 第22回ヤング・サマー・セミナーの開催報告
 2-私の提言 Qの創造に資するイノベーションを発動する場 (BA) づくり
 2-ルポルタージュ 第451回事業所見学会ルポ
 3-ルポルタージュ 第452回事業所見学会ルポ／第55年度事業計画
 4-研究助成募集要項／行事案内／JSQC選書新刊／第55年度役員体制役割
 分担

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

第22回ヤング・サマー・セミナーの開催報告

第22回ヤング・サマー・セミナー幹事 吉田 悠夏

2025年9月17日(水)～18日(木)に静岡県浜松市にあるデンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」にて、日本品質管理学会 (JSQC) 第22回ヤング・サマー・セミナー (YSS) が開催されました。



(第22回ヤング・サマー・セミナー集合写真)

はじめに

本セミナーは、品質管理分野に関わる産業界と学術界のみなさまが1泊2日の滞在をとおして交流を深め、日頃の困りごとや悩みを共有しながら議論・自己研鑽を図ることを目的として、約10年ぶりに復活開催したものです。参加者の内訳は企業13名、大学生1名、大学院生14名（修士課程12名・博士課程2名）、大学教員3名の計31名となりました。久方ぶりの開催にも関わらず、産業界からも学術界からも多くの方にご参加いただき、とりわけ企業からの参加者数が過去最多となったことは、品質管理の現場と研究が交差するJSQCらしさを強く示すものとなったと思います。

セミナー1日目

1日目は、参加者一人一人の自己紹介からスタートし、続いて2件の特別講演が行われました。はじめに、JSQC会長で慶應義塾大学の山田秀先生より『品質管理:変えるべきもの、変えてはいけないもの』と題してご

講演があり、続いて株式会社デンソーの吉野睦先生より『ビッグデータの落とし穴』と題するご講演が行われました。その後、参加者による研究発表会が行われ、1件目では、東京理科大学の大学院生の池内宥人さんが『応答が直線関係の場合の測定精度評価に関する研究』と題して発表を行い、続く2件目には、アネスト岩田株式会社の大西宙さんからご提案いただいた『【オープン討議】「勘と経験」からの脱却』をテーマとして、フロアと活発な意見交換が展開されました。



(山田秀先生による特別講演の様子)

夕食後にはAQUAWINGSの最上階にある「Sky Dining and Bar」にて懇親会が開催されました。分野や立場を超えて参加者同士の交流が深まり、YSSの魅力が十分に發揮された懇親会となったように思います。この懇親会が、さまざまな背景を持つ参加者の親睦を深め、品質管理分野の将来に向けたネットワーク形成へつながる有意義な機会になっていれば嬉しく思います。

セミナー2日目

2日目は、参加者による研究発表会から始まりました。まず、トヨタ自動車株式会社の小茂田岳広さんより『ビッグデータ時代における古典的品質管理手法の効果と教育』、続いて株

式会社デンソーの菊池元太さんより『因果探索の製造データへの適用：性質と事前知識を踏まえて』と題して話題提供が行われました。最後の特別講演では、元JSQC会長で、現在はデータ共同利用基盤施設副施設長を務める椿広計先生より『若かったころのJSQC統計手法研究会活動～積み残した多くのことへの反省～』と題した講演があり、椿先生ご自身の経験に基づくメッセージが参加者へ届けられました。

第23回YSS開催に向けて

第22回YSSを締めくくるにあたり実施したアンケートでは、「大変勉強になった」、「貴重な機会だった」といった声が多く寄せられるとともに、より充実した企画を望む前向きなご意見も数多くいただきました。これらを踏まえて、JSQCでは次年度も株式会社デンソー様のご協力のもと、同会場「AQUAWINGS」にて第23回YSSを開催することが決定しました。第23回YSSは2026年8月中旬～下旬頃の開催を予定しています。みなさまのご期待にお応えできるよう準備を進めておりますので、どうぞご期待ください。詳細につきましては、JSQCホームページおよびメーリングリストにてご案内いたします。

さいごに

本開催にあたり多大なるご支援を賜りました椿広計先生、永田靖先生、山田秀先生、企画・運営にご協力いただいたJSQC事業広報委員会のみなさま、株式会社デンソーのみなさま、JSQC事務局のみなさま、そして、セミナーにご参加いただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

● 私の提言 ●

「Qの創造に資するイノベーションを発動する場 (BA) づくり」

名古屋大学名誉教授/栃木女子大学 栗本 英和



「質」を基盤にした、新たな景色や世界観を描けないだろうか。かつて椿先生や古谷様と意見交換する機会があり、入会しました。学会のビジョンである『Qの確保』『Qの展開』『Qの創造』は魅力あるタグ・ラインであり現在、中止を拠点とする活動に参画しています。

提言よりも提案として浮かぶのは「品質管理」という言葉です。学会規格の品質管理用語ではQuality Management(質のマネジメント)です。一方、学会名はQuality Controlであり、制御や統制の意味合いが強くなります。歴史的な

背景と思われますが、ビジョンに照らして再考するならば、Quality Control, Management, and Design(略称QC)の方がむしろ納得感があります。

過去の延長で将来を考える姿勢は事実前提といわれるのに対して、ありたい姿から考える姿勢は価値前提といわれます。本学会の未来を想像する時、ありたい姿を目指すためには、質を追求する取組(改善、改良、改革を含む)が拡がっているのだろうか、質による新たな価値創造のための挑戦をしているのかを振り返ってみる(self-assessment)必要があります。

もう1つはコスパやタイプとよばれる、狭義の生産性に偏りがちな仕事文化のなかで、過去に拘泥せず、未来に向けて忌憚なく意見交換できる心理的安全

性が確保された、野中郁次郎博士が描く「場(BA)づくり」です。とりわけ、次世代を担う技術者や研究者がわくわくする、どきどきする勇気ある挑戦や投資を通して、失敗も共有し学べる、業種業態を超えたコミュニティを形成します。

趣旨は学協会の取組が、それぞれの枠内の部分最適に陥らず、Japan Association for Qualityに資する共通認識を礎に、越境することで新たな価値を目指す実践協働体(community of practice)を醸成する仕掛けに他なりません。昨今、話題にでる生成AIも、多様性ある協働から生まれる、従来にない景色や俯瞰から本質を突いた、より的確かつ適切な解を導くこともできるからです。これは自らの課題を他部署や他機関に転嫁しない、後回しにしない考え方にも通じます。

品質管理以外の、経営の質、教育の質、医療の質など、Qualityのありたい姿を目指すBAづくりによって、新たな切り口から『Qを創造する』文化の再興を期待します。

第451回
事業所見学会
ルポ

資生堂グローバル
イノベーション
センター

2025年6月20日に『～Shiseido Beauty Park(横浜)で、香りと触感の世界を体感してみませんか?～感性にまつわる品質「嗅覚・触覚の感性」と題した事業所見学会が資生堂グローバルイノベーションセンターで開催され、25名が参加した。

見学会は資生堂品質保証部およびみらい開発研究所のご協力のもと実現した。まずは会社紹介及びグローバルイノベーションセンター紹介があった。

その後、2班に分かれて研究員の方のご案内により、「Shiseido Beauty Park」を見学した。資生堂の歴史や製品について視覚、聴覚だけでなく、触覚や嗅覚も使って感じることができた。見学の最後にはAWE(オウ:日本語で「畏敬の念」)体験として、音声・香りとともに没入感のある映像を体験することができた。

見学後はみらい開発研究所及び品質保証部により、以下の4つのタイトルで取り組み・研究成果を紹介い

ただいた。

1. 感覚価値について
2. 美容心理と情緒価値(時系列の官能評価と化粧品への応用、脳血流反応測定を用いた製品評価法)
3. 香りの研究と綱領開発
4. 資生堂の品質方針と品質保証

いずれのご紹介も自らの実体験と重ね合わせながら聴くことができ、また、ここまで深く研究されているのかと驚く部分もあり、大変興味深いものであった。質疑も活発に行われ、なかなか次のテーマに移れないことが多くあったくらいである。特に品質方針(Our Actions)として紹介いただいた、「お客様ファーストの追求」「安全性の最優先」「法令の遵守と社会課題への取り組み」「品質管理の徹底」「美の可能性の追求」は多くの参加者から共感されていた。目には見えにくく、数値で表しにくい(と思っていた)感性の世界を目に見える形で表現する取り組みに大いに感動し、有意義な見学会であった。

最後に、本見学会開催やご対応いただいた株式会社資生堂のみなさまに感謝申し上げます。

吉澤 智美(日本電気株)

第452回
事業所見学会
ルポ

アイリスオーヤマ(株)
角田 I.T.P.

- 2025年7月25日(金)、宮城県角田市にあるアイリスオーヤマ株式会社 角田 I.T.P. (インダストリアル・テクノ・パーク) を20名で訪問した。
- アイリスオーヤマは、家電、食品、ヘルスケア、ロボティクスなど多岐にわたる事業を展開し、政府備蓄米の迅速な販売でも知られている。
- はじめに、アイリスグループのモノづくり中枢拠点である角田 I.T.P.構内を見学し、試験評価センターでのJNLA測光検査や耐摩耗試験、精米で培った低温製法と内製のトレーや脱酸素剤を用いたパックごはんの生産ラインなどについて説明いただいた。
- 見学後、品質管理本部大泉氏から、①5つの企業理念のもと、「ユーザーイン発想」即ちユーザー視線で物事を捉え、アイデアあふれるモノづくりを通して、企業発展に不可欠である「需要創造」を実践していること、②コア技術×ユーザーイン発想で、例えば不織布技術をコ

アに、ペットシーツ→マスク→フィルターというシナジー効果ある商品展開で、次々に新規事業に参入していくことなど、会社概要を講演いただいた。

● 次に、同本部の金井氏から「アイリスオーヤマの品質管理の変遷」、下村氏から「食品の品質管理体制の構築」について講演いただいた。事業領域が日用品から家電、食品へと拡大し、想定されるリスクと品質管理に求められる難易度が増加する状況下で、知見不足をどのように対策で補い、品質管理体制をどのように築き上げているか、その実施方法を具体的に説明いただいた。続いてDRや社員教育、人材採用などに関する参加者からの質問に対して詳細に回答いただいた。

● 同社の優れた実績の背後には、①関係者全員が同時に情報共有し、意見交換できる仕組みが有機的に機能しており、②その仕組みを使って業務遂行することが日常的に当たり前であるという強固な組織基盤が存在することを強く実感した。

● 本見学会開催にご高配を賜り、ご丁重にご対応いただいた角田 I.T.P.の皆様に心から感謝申し上げます。

海老根 敦子（駿河台大学）

一般社団法人 日本品質管理学会 第55年度事業計画

会合／月	2025 10月	11月	12月	2026 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
年次大会・通常総会		第55回 15日(土) 京都大学 吉田キャンパス												第56回 中旬
研究発表会	本部・中部 関西							第140回 本部				第141回 中部	第142回 関西	
講演会	東日本・中部・ 関西	第153回 2日木						○	○	○		○	○	
講習会	標準委員会				日常管理の 指針				○				○	
シンポジウム	本部・東日本・ 中部・関西								○	○		○		
クオリティトーク	東日本	第143回 web 22日火					○			○			○	
事業所見学会	東日本・中部・ 関西・西日本					○	○		○	○	○	○		
QCサロン(関西)	第149回 7日火Web				○		○		○		○			
その他の行事	ANQ2025 ハンガロール 3-7											第23回 ヤング・サー・ セミナー		ANQ2025 中国 成都 26-30
理事会	502回 27日月Web	503回 15日土	504回 19日金Web	505回 28日火Web		506回 26日木Web		507回		508回		509回	510回	511回
庶務委員会	20日月Web		12日金Web	20日火Web		18日水Web		○		○		○	○	
学術委員会	論文誌編集	31日金Web	18日火Web	17日水Web	22日木Web	18日水Web	17日火Web	22日水Web	20日木Web	19日金Web	21日火Web		16日水Web	

※論文投稿は委員会の開催10日前までにお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

第55年度研究助成募集要項

趣 旨：21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

助成金額：1件5万円 5件以内

期 間：1年間（第55年度：2025年10月～2026年9月）

募集期間：2025年12月～2026年3月末日

詳 細：<https://jsqc.org/54grants/>

行 事 案 内

●第24回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ

テーマ：—Safety-II：理論を実践につなげるには—

日 時：2025年12月22日(月)13:00～17:30

会 場：Cisco Webex Event (オンライン開催)

プログラム：

1. 開会挨拶・趣旨説明
伊藤 誠 氏 (筑波大学、日本品質管理学会)

2. 問題提起：Safety-II：理論を実践につなげるには

首藤 由紀 氏 (社会安全研究所)

3. セーフティIIとは？ 失敗を減らすから成功を増やすへ

芳賀 繁 氏 (立教大学)

4. 自主的安全性向上に向けた Safety-IIベースの実践的取り組み
高橋 信 氏 (東北大学)

5. 医療安全：適応キャパシティのしなやかな拡張と境界を越えた協働
中島 和江 氏 (大阪大学医学部附属病院)

6. パネルディスカッション

Safety-II：理論を実践につなげるには
コーディネータ：首藤 由紀 氏

パネラー：木村 浩 氏 (木村学習コンサルタント)、飯塚 悅功 氏 (東

京大学)、上記講演者
詳細・申込：https://jsqc.org/25ss_ws/

事 務 局

JSQCホームページ：<https://jsqc.org/>

本 部：〒166-0003

東京都杉並区高円寺南1-2-1

日本科学技術連盟東高円寺ビル内

E-mail：jimukyoku@jsqc.org

TEL：03-5378-1506

FAX：03-5378-1507

中部支部：〒460-0008

名古屋市中区栄2-6-1

RT白川ビル7階

日本規格協会名古屋支部内

E-mail：nagoya51@jsa.or.jp

TEL：050-1742-6188

FAX：050-3535-8675

関西支部：〒530-0003

大阪市北区堂島2-4-27

JRW堂島タワー11階

日本科学技術連盟大阪事務所内

E-mail：kansai@jsqc.org

TEL：06-6341-4627

FAX：06-6341-4615

第55年度役員体制決まる

会長	山田 秀	慶應義塾大学
副会長	藤岡 高広	愛知製鋼
〃	森田 浩	大阪大学
理 事	阿部賢一郎	ダイヤモンドエレクトリックホールディングス
〃	茨木 陽介	ITコーディネータ
〃	岩垂 邦秀	日本規格協会ソリューションズ
〃	岩本 規暉	愛知製鋼
〃	加藤 省吾	電気通信大学
〃	金子 雅明	東海大学
〃	川村 大伸	名古屋工業大学
〃	久保内大介	トヨタ紡織
〃	黒木 学	横浜国立大学
〃	今野 勤	マネジメントモデル研究所
〃	島田 尚徳	日本科学技術連盟
〃	下野 優子	早稲田大学
〃	金 路	電気通信大学
〃	高倉 宏	トヨタ自動車九州
〃	高橋 勝彦	広島大学
〃	廣野 元久	元・リコー
〃	松浦 峻	慶應義塾大学
〃	松浦 秀樹	トヨタ紡織
〃	安井 清一	東京理科大学
〃	山下 雅代	東京学芸大学
〃	山本 渉	慶應義塾大学
〃	吉野 瞳	デンソー
監 事	飯塚 裕保	積水化学工業
〃	熊井 秀俊	元・リコー
〃	佐野 雅隆	拓殖大学
顧 問	棟近 雅彦	早稲田大学
〃	永田 靖	早稲田大学
〃	若林 宏之	元・デンソー

第55年度役員役割分担表

総合企画	◎山田 藤岡 森田
品質管理推進功労賞	◎山田 藤岡 森田
庶務	◎金子
庶務、選挙管理	◎金子 飯塚 岩本
会員サービス	◎下野
規定	◎岩垂
会計	◎島田
ICT	◎茨木 金 [渡辺]
活動	◎山田
事業・広報	◎廣野 黒木 高倉 吉野
研究開発	◎黒木 加藤
学会誌編集	◎加藤
JSQC選書特別	◎[飯塚(悦)]
東日本支部	◎廣野
中部支部	◎松浦(秀) 川村 久保内 吉野
関西支部	◎阿部 今野
西日本支部	◎高橋 高倉 [西]
ソフトウェア部会	◎茨木
医療の質・安全部会	◎梶原
サービスエクセレンス／生産革新部会	◎[木内] 安井
標準	◎山本 [中條]
学術	◎安井
論文誌編集	◎安井
Total Quality Science 編集	◎山本
最優秀論文賞／研究奨励賞	◎森田 安井
品質技術賞	◎藤岡 加藤
研究助成特別	◎川村 金
学会間交流	◎松浦(峻) [鈴木(知)]
FMES・横幹	◎下野
国際 (ANQ)	◎松浦(峻) [鈴木(知)] 山田
安全・安心社会技術連携特別	◎[伊藤] [中條]
TQE特別委員会	◎[鈴木(和)] [古谷] 山下
研究発表会実行特別委員会	◎森田 [鈴木(知)] 安井 黒木

◎委員長、支部長、部会長 [] 役員以外の方

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書40」好評発売中

●JSQC選書40 (184ページ)

書名：病院だからTQM デミング賞を通して見えたもの

著者：福村 文雄・立石 奈々

判型等：四六判、並製本

定価：1,980円(税込) → 学会員特典価格：1,584円(税込・送料別)

申込方法：<https://jsqc.org/jsqcselection/>

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。